

アレルギー疾患対策の見直しによる主なポイント

見直しの背景

◎ アレルギー疾患は、国民の約3割が罹患する国民病であり、喘息死については減少している(平成17年:3,198名 → 平成21年:2,139名)ものの、花粉症などのアレルギー疾患は増加している(1998年:19.6% → 2008年:29.8%)。

新たな課題の発生

- 喘息死患者は減少しているものの、死亡の阻止が可能であるにもかかわらず、依然として喘息死患者は存在している。
- 環境要因の影響は大きいものの、花粉症などは増加傾向にあり重要な健康問題である。
- アレルギー疾患に対する、診療ガイドラインの改訂や患者の自己管理マニュアル等の作成を行ったが、その内容の普及が不十分である。
- 難治性アレルギー疾患の患者は、依然として治療方法が確立されていない。

報告書の概要	今後の方向性	具体的方策
医療の提供等	かかりつけ医に対して、適切な診療のための知識を普及	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 喘息死ゼロ作戦のより一層の推進 ▪ 診療ガイドラインの改訂 ▪ 診療のミニマムエッセンスの作成 ▪ 医療従事者育成の強化
情報提供・相談体制	自己管理手法のより一層の普及	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 患者自己管理のより一層の促進 ▪ 情報提供体制の確保 ▪ 相談体制の確保
研究開発等の推進	難治性アレルギー疾患の治療法の開発 医療体制の確保に資する研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 難治性アレルギー疾患の治療法の開発 ▪ 診療のミニマムエッセンスの作成